

もっと知りたい街の川

河川紀行

Vol.2

やべがわ おそばがわ 矢部川・御側川

河川紀行

次へ

閉じる

矢部川と御側川の合流地点



エノハやアユ釣りも盛ん。日向神ダムではイベント トップ

御側川と矢部川が流れる矢部村は、福岡県の最東南端に位置し、総面積約80.46km²のうち80%以上が森林という四方を山に囲まれたのどかな村で、エノハやアユといった清流にしか住まない川魚の宝庫です。古い歴史に基づいた物語が残り、シャクナゲなど季節ごとの花も見事で村外からもたくさんの人が訪れています。このようにおだやかな村ですが、昭和21年と昭和28年には強い雨が降り続き、大きな洪水が発生しました。28年の洪水により計画が見直され、洪水調節・かんがい用水の補給・発電等を目的とした日向神ダムが、昭和38年5月に完成しました。この日向神ダム湖の周回道路

には桜並木が広がり、春には満開の桜が咲き誇ります。

春の桜が
楽しみだわ



河川紀行 次へ

福岡県で2番目に長い矢部川に注ぐ御側川

御側川と矢部川の源流域である矢部村は、福岡県と大分県、そして熊本県の県境に位置する山間の村です。御側川は、福岡県で一番高い釈迦岳(1230m)と二番目に高い御前岳(1209m)を源とする長さ4kmの川で、矢部村役場のある北向地区で、三国山を源とする矢部川に合流しています。矢部川は森を育て、川辺の生き物を育てながら、日向神溪谷の溪流を集めて流下し、九州一広大な筑後平野を潤し、ムツゴロウなどが住む干潟で有名な有明海に注いでいきます。矢部川の長さは、筑後川に次いで福岡県下第2位の61km。上流の溪谷部にはブナやケヤキの美しい林が形成され、途中には雄大な滝やダム湖、水辺の公園など、楽しい遊び場もたくさん整備されています。

福岡県で2番目に長い
矢部川の源流なんだ



日向神ダム

矢部村と黒木町の境にある数kmにわたる広大なダム湖。治水利用だけでなく、水力発電などにも利用されています。湖内では釣りを楽しむこともできます。また、毎年4月の第1日曜日には周回道路で「桜祭りマラソン大会」が開催されています。ウォーキングや駅伝といった気軽に参加できるイベントなので、飛び入りを含め、大勢の人で賑わっています。



七人塚

矢部川を挟んだ矢部村役場の向かい側にひっそりと1基の塚があります。600年以上前の南北朝時代に戦に敗れて逃げ落ちてきた7人の侍の霊をとむらうために村人が建てたものです。

閉じる



▲矢部川源流公園

村民体育館やグラウンドの前を流れる矢部川に整備された公園には、自然石がゴロゴロころがる川面まで降りて行ける親水階段や太陽の光で時を教える日時計がつくられています。また、川をせきとめた「ふれあい河川プール」は子どもに大人気。夏の間は隣町から毎週ここに子どもたちと来ているというお父さんは「自然の澄んだ水だから身体にも安心だし、何より無料なのがいいですね。安全だし、泳ぐのにとってもいい場所、絶好の穴場なんですよ」と話してくれました。



大吊橋

うわーい！川が
キレイで魚もた
くさんいるよ



マイナスイオン
がいっぱいって
感じ



◀秘境^{そま} 里^{さと}溪流公園

御側川上流の釈迦岳山麓に広がる溪流公園です。溪流沿いにつくられたせせらぎの小径や溪流釣

り場、高さ55m・長さ150mの大吊橋、ホテルやウッティロッジなどの宿泊施設、レストランや物産館などを備え、工房では陶芸や草木染め・機織りなどの体験もできます。子どもから大人までたつぷりと自然に親しめる体験型のレジャー施設です。

よーし！いろ
んなことを
体験するぞ



◀ハツ滝

トップ

^{そま} 里溪流公園からさらに御側川を約2kmさかのぼると、左手の林の中に、真っ白い帯を見せて落下する美しい滝があります。家族5人で久留米市から遊びに来ていたご一家のお母さんは「ものすごく涼しいし、マイナスイオンがいっぱいという感じで気持ちいいですね。水は澄んで冷たくて、滝壺から見上げると白い滝と森の緑と空の青さの対比がとてもきれいですね」と自然を楽しんでいました。

ハツ滝のエノハと 孝行息子の伝説

その昔、御側川のほとりに寝たきりの父親が仙太郎という息子と二人で住んでいました。父親が「ハツ滝に住むという珍しい魚を食べたい」というので、仙太郎は釣りに出かけたが一日中釣り糸を垂れても釣れなかった。あきらめて帰ろうとすると、岩の上から白髪の老人が「おまえがほしがっている魚はきれいな水にしか住めない。死ぬまでこの山の水を大切に守り、一度に釣るのは一匹だけと約束するなら、魚をやろう」と言いました。約束すると、その老人は目の前の木の葉をちぎって滝壺に浮かべました。すると

不思議、その葉は魚になって泳ぎ始めたのです。親孝行な息子は父親にその魚を食べさせることができました。木の葉が変身したことから、その魚をエノハ(ヤマメ)と呼ぶようになり、仙太郎とその子孫によって、今もエノハは矢部村の名物として生き続けています。

